

6/14

基地撤去・沖縄奪還・安保粉碎・大学治安立法粉碎・佐ト打倒

6.15 全関西大学御堂筋デモに起て!

(ノ時大手前公園)

6.14 市大全学総決起集会(ノ時 工学部前)

ベトナム加担ーASPA Cー沖縄核付ぎ返還ー安保を結ぶ日本帝国主義の戦争挑発と新植民地主義を阻止せよ!

アメリカ帝国主義によるベトナム侵略を二重に支持し、の北爆にいちばん同意し、米軍の兵、補給基地としての横須賀、佐世保等の自由使用を認めさせた佐藤内閣は、一昨年の訪ベトナム、昨年のエンタラライズの寄港承認により、全世界の反戦平和をめぐって争がっている人民、とりわけ、米帝と激戦に斗っているベトナム人民に公然敵対してきた。

だが、昨年のテト攻勢以降、解放戦線の政治的軍事的へげモニーが確立され、それ以降着々と人民大衆を組織し、ハノイ放送の伝えるところによれば、「臨時革命政府」が樹立された。米帝の敗北は、今や決定的なものになつており、我々はベトナム人民と連帯して反戦斗争の展開によりサイゴン政打倒、基地撤去、米軍全面撤退を知らねばならぬ。

そして、「安保条約」をににとり米帝のベトナム侵略に加担しつづけてきた佐藤内閣の責任を徹底的に追究しなければならぬ。更に、ベトナム侵略加担を通して明らかになつてきた「沖縄」の重要性をいさかか損ねることなく日本帝国主義が、昨年安保の再編、強化を機に独自に東アジア侵略と東アジアとしていた時、「沖縄」を「返還」させることは、日帝にとって当然の要求であるし、又、米にとつても「太平洋の要砦」を現状維持のまゝ、日米共同管理体制に置くのは好ましいことである。

このように日米両帝国主義間の利害調整の場として、ニクソンが大統領になつて初めての閣外相との会談があったのであり、遂に、ロジャース会談で話されに内容が「核付ぎ、自衛用返還」であったことも、けだし当然のことといえるだろう。

6月9日から三日間行なわれにアジア、太平洋協議会へASPA Cへ日本会議、朝鮮の緊張を激化させているものが米帝の戦争挑発へエゴ口号事件、優待攻撃事件であるにも拘わらず一切それらに関与し、土壌を二重に非難し、ベトナムでもカイライ政打倒を掲げている。

これらの事実からも、又、ASPA C参加国の過半数がベトナム参戦国であることから明らかなように、ASPA Cは、反共戦争の軍事同盟に転化する危険性が著しく大きく、しかも、その中では日本帝国主義が中心となり、手を握っている。

これらの一連の動向からも明らかなように、今や「日本が戦争にまきこまれる」のではなく、日本が他国をまきこんでアジアの緊張激化の戦争挑発を企んでいるのである。我々は、明確に安保斗争の重要環境としての安保斗争を

革新グループ